上勝町「樫原の棚田」の文化的景観調査と考察*

Cultural Landscape Survey and Consideration of Rice Terrace in Kashihara, Kamikatsu-Town*

澤田俊明**・田中紀子***・花岡史恵***・新開晴美****・平井松午*****

By Toshiaki SAWADA** • Noriko TANAKA*** • Fumie HANAOKA*** • Harumi SHINGAI**** • Shogo HIRAI****

はじめに

(1) 背景

平成17年4月1日の文化財保護法の改正により、文化財として新たに「文化的景観」が位置づけされた。そして、文化的景観の保護の仕組みとして、景観法に定める景観区域または景観地区にある文化的景観のうち、特に重要なものを「重要文化的景観」として選定する「重要文化的景観の選定」の制度が誕生した。

重要文化的景観の第 1 号として、平成 18 年 1 月 26 日に「近江八幡の水郷」(滋賀県近江八幡市)が選定され、その後、計4カ所が選定されている。水田景観については、平成 19 年 6 月現在、樫原の棚田以外に、「大山の千枚田」(千葉県鴨川市)、「蕨野の棚田」(佐賀県唐津市)、「姨捨の棚田」(長野県千曲市)などで調査・検討が実施されている。

徳島県上勝町樫原地区に位置する「樫原の棚田」は、 平成 11 年に農林水産省より「全国棚田百選」の一つに 選定され、平成 16 年より、地元棚田保全組織である 「樫原の棚田村」主催による「棚田等オーナー制」がス タートしている。

平成 17 年の文化財保護法における文化的景観の創設に伴い、地元棚田保全組織「樫原の棚田村」の要望もあり、平成 17 年度より、上勝町教育委員会により「樫原の棚田(水田景観)」及びその周辺地域を対象として、重要文化的景観選定のための「保存調査」および「保存計画(案)」の調査検討が行われている。

— •	
表 1	重要文化的景観课定の取り組み

	所在地	名称(仮称)	種類	備考
モデ	北海道 中標津町	中標津格子状防風林	複合景観	
デル調査	栃木県 宇都宮市	大谷石(採石場の景 観) ¹	集落に関 する景観	保存調査 実施
置	千葉県 鴨川市	大山の千枚田 ²	水田景観	保存調査 実施

- * キーワーズ:景観、地域計画、GIS
- ** 正員、博(工)(有)環境とまちづくり(〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原川北30 TEL0885-44-6290)
- *** 正員、(有)環境とまちづくり (〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原川北 30 TEL0885-44-6290)
- **** 非会員、上勝町教育委員会(〒771-4505 徳島県勝浦郡 上勝町正木平間 110-1 TEL0885-45-0111)
- ***** 非会員、徳島大学総合科学部(〒770-8506 徳島市南常 三島町 2-1、TEL088-656-7103)

	滋賀県 近江八幡市	近江八幡の水郷	複合景観	平成 18 年 1 月選定
	京都府 京都市	北山杉の林業景観	森林景観	
	兵庫県 稲美町	稲美のため池群	池沼景観	
	愛媛県 宇和島市	遊子水荷浦の段畑	畑地景観	平成 19 年 6 月選定
	福岡県 柳川市	柳川の掘割景観	水路景観	
	佐賀県 唐津市	蕨野の棚田	水田景観	
その他	岩手県 一関市	一関本寺の農村景観	農村景観	平成 18 年 7 月選定
	北海道 平取町	アイヌの伝統と近代 開拓による沙流川流 域	伝統文 化、開拓	平成 19 年 6 月選定

(2) 目的

本研究は、平成17年度~18年度の2カ年に渡り実施された、「樫原の棚田」における「保存調査」をもとに、棚田景観要素のうち、主要な景観構成要素である「農地(水田景観)」について、文化資源としての棚田景観価値に関する考察を行うものである。本紙面では、「棚田の形状」「石積み」「棚田の変遷」について考察を行う。

2. 楔原地区での文化的景観保存調査の概要

(1) 「樫原の棚田」の概要

a) 概要

棚田が存在する樫原地区は、四方を標高 700~900 m級の山々に囲繞され、隣接する集落とは峠道で結ばれる小宇宙的な空間を形成している。農林水産省による「棚田」は、傾斜角度が1/20 以上の水田と定義されており、「樫原の棚田」は、棚田面積 5.5ha・平均勾配が1/4 (平成 11 年棚田百選登録時データ)で、百選の棚田地区の中でも最も厳しい地形条件にある棚田の一つである。

写真 1 樫原の棚田

b) 経過

「樫原の棚田」を保全する地元住民意識には根強いものがあり、平成7年の第1回棚田サミット(高知県梼原町)への樫原住民2名の参加、平成8年の上勝町全域の棚田保全を考える「上勝町棚田を考える会」の発足、平成10年の樫原地区における「水車小屋」の復元など、一連の活発な棚田保全活動が継続的に行われてきた。

平成 11 年には、「日本の棚田百選」の一つに選定され、平成 15 年には樫原地区住民を主体とする棚田保全組織である「樫原の棚田村」が組織化され、平成 16 年には、上勝町の構造改革特別区として農地活用を含む「上勝町まるごとエコツー特区」が国に認定された。

この特区を活用して、平成 16 年より「樫原の棚田村」が主催する「棚田オーナー制」が誕生し、現在 15 組前後の棚田オーナー(約80名程度)が活動している。 一方で、樫原地区住民 15世帯は高齢化・後継者不足が一層進展し、樫原地区での棚田耕作等の維持が困難になり、平成18年には休耕農地が約2.7haに達した。

表 2 樫原地区における棚田保全活動の経過

年代	概要
平成7年9月	第 1 回全国棚田サミット参加(樫原地
	区から住民2名)
平成8年12月	上勝町全域の棚田保全を考える「上勝
	町棚田を考える会」の発足
平成 10 年 3 月	樫原地区における「水車小屋」の復元
平成 11 年 7 月	全国棚田百選に選定される
平成 15 年 11 月	樫原地区住民を主体とする棚田保全組
	織「樫原の棚田村」の発足
平成 15 年 11 月	樫原地区地域懇談会の開催 (平成 18 年
	4 月までに 14 回開催、上勝町住宅マス
	タープラン推進事業)
平成 16 年 4 月	「上勝町まるごとエコツー特区」認定
平成 16 年 4 月	「樫原の棚田村」による農業体験開始
平成 17 年 4 月	「樫原の棚田村」による棚田オーナー
	制の開始
平成 17 年 3 月	樫原農家でワーキングホリデーの受け入れ(農
	作業・石積み作業・景観調査)
平成 17 年 6 月	重要文化的景観保存調査開始
平成 18 年 1 月	樫原の昔を語る会の開始(12 回開催・
	平成 19 年 6 月現在、文化的景観保護推
	進事業)

(2) 樫原の棚田における文化的景観の調査

a) 保存調査の概要

保存調査は、平成 17 年度、平成 18 年度の2カ年に渡り実施された。調査は、樫原地区及びその周辺地区を対象として実施されて、「上勝町の概観」「樫原地区の概観」「景観の構成要素」「地区景観の特性把握」について行われた。

表 3 保存調査の対象と項目

調査の対象	調査の項目
対象範囲	樫原棚田の水田景観百選エリアを中心と
	した樫原地区、及びその周辺地区
上勝町の概観	上勝町の町勢、上勝町の農業事情、上勝
	町の棚田
樫原地区の概観	樫原地区の年譜、成り立ち、耕作面積と
	戸数の推移、歴史的景観、災害、棚田畦
	畔の植生と昆虫相
景観の構成要素	農地、水系、樹木・山林、道、建造物、
	生活・文化、空間の景観特性
地区景観の特性	樫原地区の景観特性、個々の景観特性、
	地区景観の特性からみた保全等の対象

b) 構成要素の一覧

文化的景観を構成する景観構成要素は、自然の観点・ 歴史の観点・生活生業の観点より、下表に示す景観構成 要素が調査対象となった。

表 4 景観構成要素一覧

要素 項目 調査内容 調査方法 農地 耕作状況 現況耕作状況 個別聞き取り 規決株件者区分 資料・現地 資料・現地 機地の形状 壁の曲線・段 現地 小規模面積の農地 資料・現地 農井・子・石積み状況 現地 農井・子・子生 資料・現地 展井・子・子生 資料・現地 水系 水路系統 極原谷川 資料・現地 水水路底設 久保用水 全体間き取り現地 水の工夫 一次水施設 現地 水の工夫 一次水施設 現地 電子水施設 現地 現地 電子・大正時代 資料・現地 明治・大正時代 資料・現地 電台の変遷 一江戸時代 資料・現地 資料・現地 電台の変遷 一江戸時代 資料・現地 資料・現地 電の変遷 一江戸時代 資料・現地 資料・現地 現地・アールでので 資料・現地 資料・現地 資料・現地 現地 電ので遷 一江戸時代 資料・現地 資料・現地 現地 資料・現地 現地 資料・全体間き取り 現地(2) 実施 現地(2) 現地(2) 東取り 実施 表のりまた 実施	रर 4	京既伸以安糸	見	
現況耕作者区分 個別聞き取り 耕作地の変遷 資料・現地 畦の曲線・段 現地 小規模面積の農地 資料・GIS 石積み・土坡 石積み水沢 現地 漢料 原作物の変遷 江戸~昭和時代 資料 現地 関州 現地 資料・現地 田水 個別聞き取り 資料・現地 名 保 間 を取り 現地 カン な な は 関 で で で で で で で で で で で で で で で で で で				調査方法
耕作地の変遷 資料・現地 現地 現地 現地 現地 小規模面積の農地 資料・GIS 石積み・土坡 石積み状況 現地 江戸・昭和時代 資料 資料 選料 選料 現地 資料 現地 資料 現地 資料 現地 資料 現地 現地 選料 現地 現地 現地 選料 現地 現地 現地 現地 現地 現地 現地 現	農地	耕作状況		
農地の形状 畦の曲線・段 小規模面積の農地 石積み・土坡 高標件物の変遷 現地 済料 環料・GIS 石積み状況 水系 水路系統 樫原谷川 展井牛・仔牛生 産・採草 一水系 一大路施設 資料・現地 個別聞き取り 資料・現地 全体聞き取り 現地 、水車跡 水利慣行と配水の工夫 分水施設 液の工夫 個別聞き取り 環地施設 現地 明治・大正時代 昭和時代 管料・現地 明治・大正時代 資料 昭和時代 資料・現地 資料・現地 領料・現地 明治・大正時代 資料 程道 生活道 全体聞き取り 生活道 全体聞き取り 現在の直 現在の百事道 建 造 大の所有者 現在の民家 日間別聞き取り 現地(2戸) 現在の民家 個別聞き取り 現地(2戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2戸) 現地・資料 祭り 中社・小祠 祭り 中社・小祠 現地・資料 祭り 同地・資料 祭り 現地・資料 祭り 現地・資料 祭り 現地・資料 祭り 現地・資料 祭り 現地・資料 祭り 現地・資料 祭り 現地・資料 祭り 現地・資料 原地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 見地・資料 現地・資料 見地・資料 現地・資料 見地・資料 現地・資料 見地・資料 見地・資料 見地・資料 現地・資料 見地・資料 見地・資料 現地・資料 見地・資料 現地・資料 見地・資料 現地・資料 見地・資料 現地・資料 見地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・産業 現地・資料 現地・産業 現地・産業 現地・資料 現地・産業 現地・産業 現地・産業 現地・産業 現地・産業 現地・産業 現地・産業			現況耕作者区分	個別聞き取り
小規模面積の農地 資料・GIS 石積み・土坡 石積み状況 現地 選邦 日本 資料 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日				資料・現地
 石積み・土坡 農作物の変遷 江戸~昭和時代 資料 農耕牛・仔牛生 産・採草 棚原谷川 関州・現地 関別 ・現地 関別 ・現地 関別 ・現地 を全体聞き取り 現地 水 ・ 取が 全体聞き取り 現地 水 ・ 取が 全体間き取り 現地 アルー・ では できます できます できます できます できます できます できます できます		農地の形状	畦の曲線・段	現地
農作物の変遷 江戸~昭和時代 資料 農耕牛・仔牛生 資料 産・採草 一			小規模面積の農地	
水系 水路系統 農耕牛・仔牛生 産・採草 資料・現地 例別聞き取り 資料・現地 水路施設 久保用水 全体聞き取り 現地 水面が 全体聞き取り 現地 現地 水面計 水の工夫 個別聞き取り 理水施設 道の変遷 江戸時代 昭和時代 資料・現地 明治・大正時代 資料 昭和時代 世の道の利用 街道 生活道 現在の車道 全体聞き取り 資料 全体聞き取り 現地(15戸) 現在の目 現本の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2戸) 現地 環地 資料 本の他 水車 構造物 現地 資料 生活 仕事 全体聞き取り 現地(2戸) 現地 資料 事野 全体間き取り 現地・資料 再社・小祠 原地・資料 現地・資料 真地・資料 現地・資料 山犬獄 現地・資料 中、資料 現地・資料 中、資料 現地・資料 中、資料 現地・資料 原設り 現地・資料 原設り 現地・資料 原設り 現地・資料 原設 現地・資料 原設 現地・資料				現地
本の他 本語 本の		農作物の変遷		資料
水路系統 型原谷川 資料・現地 個別聞き取り 資料・現地 水路施設 久保用水 全体聞き取り 現地 水利慣行と配 水の工夫 液水施設 現地 現地 現地 野科 田和時代 資料 田和時代 資料 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日			農耕牛・仔牛生 産・採草	資料
用水 個別聞き取り	水系	水路系統	樫原谷川	資料・現地
現地 水車跡 全体聞き取り 現地 水利慣行と配 水の工夫 道の変遷 江戸時代 資料・現地 明治・大正時代 資料 昭和時代 資料 田和時代 資料 田和時代 資料 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日		5 - 1.3		個別聞き取り
現地 水利慣行と配水の工夫 海水施設 現地 選水施設 現地 選水施設 現地 選水施設 現地 選米 野科 田和時代 資料 田和時代 資料 田和時代 資料 田和時代 資料 田和時代 資料 田和時代 資料 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日		水路施設		現地
水の工夫 灌水施設 現地 道の変遷 江戸時代 資料・現地 明治・大正時代 資料 昭和時代 資料 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日			3 1 1 2 3	現地
道 道の変遷 江戸時代 資料 現地 明治・大正時代 資料 昭和時代 資料 日前 全体聞き取り 生活道 全体聞き取り 生活道 全体聞き取り 生活道 全体聞き取り 現在の道 現在の車道 資料 子生体間 き取り 現在の民家 個別聞き取り 現地(15 戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2 戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2 戸) 現在の民家(詳細) 切り 現地(2 戸) 現な (2 戸) である では、 京野 全体聞き取り 資料 神社・小祠 現地・資料 察り 現地・資料 察り 現地・資料 墓地 現地・資料 墓地 現地・資料 早地・資料 現地・資料 社・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 社・資料 現地・資料 社・資料 現地・資料 現地				
明治・大正時代 資料 昭和時代 資料 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日				
昭和時代 資料 街道 全体聞き取り 生活道 全体聞き取り 生活道 全体聞き取り 生活道 全体聞き取り 現在の道 現在の車道 資料 子の所有者 き取り 現在の民家 個別聞き取り 現地(15 戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2 戸) 現地(2 戸) 現地(2 戸) ででは 大車 現地 横造物 現地 横造物 現地 横造物 現地 資料 神社・小祠 現地・資料 祭り 現地・資料 泉地 現地・資料 現地 景観資源 現地	道	道の変遷		
世の道の利用 (本道) 全体聞き取り 生活道 全体聞き取り 生活道 全体聞き取り 現在の道 現在の車道 資料・全体間 でかける 現在の民家 (詳細) 現在の民家 (間別聞き取り 現地(15 戸) 現在の民家(詳細) (個別聞き取り 現地(2 戸) 現地・資料 存む・小祠 現地・資料 祭り 現地・資料 墓地 現地・資料 墓地 現地・資料 豆地 現地・資料 現地 景観資源 現地				
生活道 全体聞き取り 現在の道 現在の車道 現在の車道 資料 建造物 江戸時代の民家と 資料・全体間き取り現地(15戸)現在の民家(詳細)個別聞き取り現地(2戸)現地(2戸) 現在の民家(詳細)現地(2戸)現地(2戸) 現地 本の他 水車 現地 積造物 現地 生活文化 全体聞き取り資料 確社・小祠 現地・資料祭り 現地・資料祭り 現地・資料祭り 現地・資料基地 現地・資料 別地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 別地・資料 別地				-
現在の道 現在の車道 資料・全体間 き取り 現在の所有者 き取り 現地(15 戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2 戸) 現地 (2 戸) その他 水車 現地 (2 戸) 現土 (2 戸) 理		昔の道の利用		
建造物 民家 江戸時代の民家と 資料・全体間 き取り 現在の民家 個別聞き取り 現地(15 戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地 (2 戸) 現地 (2 戸) その他 水車 現地 構造物 現地 (2 戸) 表針 宝体聞き取り 資料 神社・小祠 現地・資料 察り 現地・資料 察り 現地・資料 墓地 現地・資料 基地 現地・資料 現地 景観資源 現地				
物 その所有者 現在の民家 き取り 現地(15 戸) 現地(15 戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2 戸) 現地(2 戸) 現地(2 戸) 本体間き取り 現地(2 戸) 現地 環地 本体聞き取り 資料 神社・小祠 祭り 信仰・祭礼 全体聞き取り 資料 察り 現地・資料 墓地 山犬獄 現地・資料 信仰・祭礼 石造物 墓地 現地・資料 現地・資料 空間 景観 現地・資料 現地・資料 空間 景観 景観資源 現地				
現在の民家 個別聞き取り 現地(15 戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地 (2 戸) 表の他 水車 構造物 現地 構造物 生活 仕事 学体聞き取り 資料 神社・小祠 祭り 全体聞き取り 資料 神社・資料 信仰・祭礼 石造物 墓地 山犬獄 現地・資料 現地・資料 空間 景観 現地・資料 素観資源 現地		民家		
現地(15 戸) 現地(15 戸) 現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地 (2 戸) 東野 全体聞き取り 資料 神社・小祠 現地・資料 奈り 現地・資料 東地 現地・資料 東地 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地・資料 現地 景観資源 現地	柳			
現在の民家(詳細) 個別聞き取り 現地(2戸) その他 水車 構造物 現地 現地 生活 仕事 字野 全体聞き取り 資料 神社・小祠 原り 現地・資料 祭り 信仰・祭礼 全体聞き取り 資料 神社・資料 祭り 現地・資料 墓地 現地・資料 信仰・祭礼 石造物 墓地 現地・資料 現地・資料 現地・資料 空間 景観 現地 景観 原別 現地 景観 別地			現任の民家 	
構造物 現地 生活 仕事 全体聞き取り 京化 字外 全体聞き取り 資料 神社・小祠 現地・資料 祭り 現地・資料 信仰・祭礼 石造物 現地・資料 臺地 現地・資料 山犬獄 現地・資料 空間 景観 現地 景観資源 現地			現在の民家(詳細)	個別聞き取り 現地(2戸)
生活 仕事 全体聞き取り		その他		
文化 茅野 全体聞き取り 資料 神社・小祠 現地・資料 祭り 現地・資料 信仰・祭礼 石造物 現地・資料 墓地 現地・資料 山犬獄 現地・資料 空間 景観 現点場 景観資源 現地				
資料 神社・小祠 現地・資料 祭り 現地・資料 信仰・祭礼 石造物 現地・資料 墓地 現地・資料 山犬獄 現地・資料 空間 景観 現点場 景観資源 現地		生活		
祭り 現地・資料 信仰・祭礼 石造物 現地・資料 墓地 現地・資料 山犬獄 現地・資料 空間 景観 現地 景観資源 現地	文化			資料
祭り 現地・資料 信仰・祭礼 石造物 現地・資料 墓地 現地・資料 山犬獄 現地・資料 空間 景観 現地 景観資源 現地			神社・小祠	現地・資料
墓地 現地・資料 山犬獄 現地・資料 空間 景観 視点場 現地 景観資源 現地				
山犬獄 現地・資料 空間 景観 視点場 現地 景観資源 現地		信仰・祭礼		
空間 景観 視点場 現地 景観資源 現地				現地・資料
景観資源 現地				
	空間	景観		
			アフォーダンス調査	資料

3. 景観構成要素とその考察

ここでは、「棚田の形状」「石積み」「棚田の変遷」 について考察を行う。

(1) 棚田の耕作状況

平成 18 年度の耕作状況は、地元住民耕作による水田、オーナー制による水田、畑地、果樹、いろどり(上勝町の葉っぱビジネス)、山林、管理、休耕田となっている。

平成 18 年度の現地調査及び GIS 解析の結果、樫原地区では、4.6ha のまとまりのある範囲で水田耕作がなされており、良好な水田景観が形成されている。一方で、休耕農地も 2.7ha に達している。減反政策をきっかけに樫原地区でも木材価格高騰の影響で、農地に植林をしたが、現在の木材価格低迷により、植林した農地が荒廃している。「いろどり」による新しい農地利用が行われているもの、樫原地区には休耕地が増え続けているのが現状である。

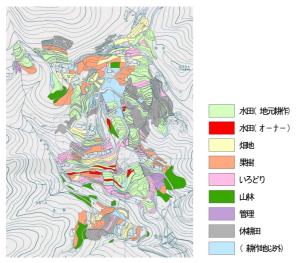


図 1 現況耕作状況図 (平成 18 年度)

表 5 耕作区分別農地枚数・面積一覧

AC O WILL	יוה האשונונו נילי		
区分	枚数(枚)	平均面積(a)	合計面積(ha)
水田(地元)	240	1.8	4.3
水田(オーナー)	13	2.0	0.3
畑地	71	2.7	1.4
果樹	85	1.6	2.3
いろどり	85	4.9	1.4
山林	27	1.4	1.3
管理	13	2.5	0.3
休耕田	200	2.7	2.7
その他	52	1.9	1.3
合計	786	-	15.3

(耕作部分は現地及び聞き取り確認、面積計算はArcGISにより算出)

(2) 棚田の形状(現状)

地滑り地帯特有のすり鉢状の形状を呈する樫原地区では、多くの地滑り跡地が棚田に利用されている。畦の形状は曲線で形成されており、自然的で良好な景観を形成している。

樫原地区の棚田景観を生み出している要素として、一

枚一枚の農地が比較的小さな面積であることがその要因として存在する。GIS により樫原地区の農地(休耕地を含む)の面積を算出すると、100m2(約 1a)~200m2(約 2a)の規模のものが最も多く存在しており、平均面積は、約180m2(約1.8a)と算出された。

また、1997 年に実施された樫原地区現地アフォーダンス調査³では、「畦の曲線」「畦の段」「水の音」が良好な景観要素として抽出されている。

樫原地区においては、「畦の曲線」「畦の段」「田畑の小さな面積」が、棚田景観の重要な構成要素となっており、保全が望まれる。特に、田畑の合筆が発生する場合、概ね 200m2 以下とし、最大でも 300 m 2 以下が好ましいと思われる。



写真 2 小規模面積の棚田

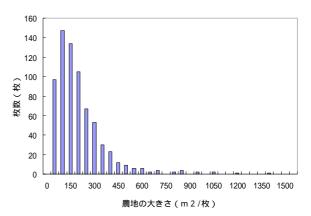


図 2 農地面積分布 (ArcGIS により算出)

(3) 石積み

樫原地区の棚田畦畔は、石積み、土坡、及び、一部ブロック積みで構成されている。石積み分布調査は、目視による現地調査を行い、GIS分析を実施した。個別農地の畦段長における石積み長の構成率をみると、80~100%が最も多く、樫原の棚田は石積みの割合が多いことが分かる。

樫原地区における石積み工法は、「乱層乱石積(手に入る石ならば野石・樵石を問わずに使用し、積み方も 決まりがなく、農村において広く用いられている)」が 大部分を占めている。

また、石積みや土坡による棚田畦畔は、ブロック積み等による畦畔とは違い、自然植生の繁茂や昆虫等の生息空間としての良好な生物環境を有している。

しかし、樫原地区は、地滑り地帯であることから、 災害等で畦畔の崩壊が繰り返されてきた。そのため、近年では、石工の減少や経済性により、ブロック積みによる修復が行われてきた。今後は、農家の生活の知恵を活用した石積み工法の継承や、良好な自然景観および良好な生物環境を維持する上においても、自然素材で構築された「石積み」「土坡」は、景観上の重要な保存対象となる。

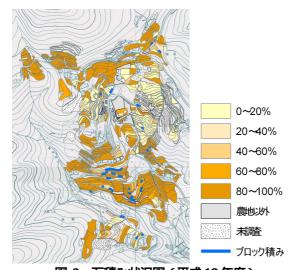


図 3 石積み状況図 (平成 18 年度)

(百分率数値は個別農地の畦段長における石積み長の構成率)

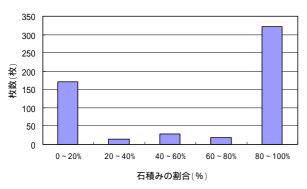


図 4 農地の石積み分布割合 (ArcGISにより算出)

(4) 棚田の変遷

樫原地区の耕作地の変遷を、文化 10 年 (1813 年) 文献絵図、1976 年航空写真、2000 年航空写真、2005 年現地調査 (第 3 回上勝ワーキング・ポリテ・- (2005/9/15~9/18)) にて調査した。

GIS による文化 10 年 (1813 年) 文献絵図と現在の地図や航空写真との照合の結果、水田・畑地の形状や分布が素直に 200 年前のまま保持されていることが判明した。特に、文化 10 年 (1813 年) と 1976 年航空写真を照合してみると、水田・畑地の状況はほとんど変わらない。1976 年から現在までの約 30 年間に休耕地が増えたことが分かる。

休耕地が増えた主要因として、1970年から始まった

減反政策による耕作者の大幅な減少、及び、経済性、過 疎高齢化などが、指摘されている。

休耕地は、転出戸が耕作していた農地や家屋から遠く離れた水田からまず放棄される傾向にあり、その場合、 杉が植林されるケースが少なくない。そのため、集落周辺の林地化が進んでいる場所も見られる。

休耕地は増えたものの、樫原地区で多くの棚田は現在も耕作されている。残存する水田・畑地の形状分布は、200年前と変わらない歴史景観をそのまま現在に残している重要な景観要素と言える。

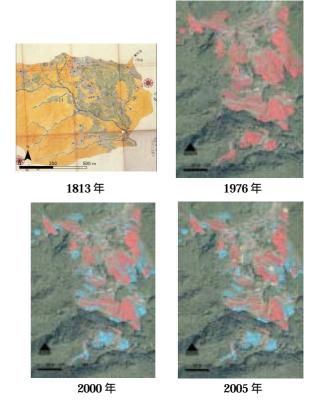


図 5 耕作状況図(赤:耕作地、青・ページュ:休耕地)

4 . おわりに

本格的な樫原地区の文化的景観の保存調査により、棚田景観の文化的価値が明らかになりつつある。

全国の他の棚田地域と同様、極端な高齢化が進展する「樫原の棚田」において、保存調査に基づく、継続的な保存が担保できる「保存計画」の内容と実効性が大きな「カギ」となる。そして、文化的景観の価値の理解・共有、保存のため規制・制約にかかる地域の合意形成の必要性が、一層重要な局面になってきている。

参考文献

¹ 大谷の文化的景観保存・活用検討委員会 , 大谷の文化的景観保存・活用事業報告書 , 平成 18 年

 $^{^2}$ 大山の千枚田文化的景観保存活用実行委員会,大山の千枚田文化的景観保存活用計画,平成 18 年

³澤田・河口ほか: 空間のアフォーダンス抽出方法とその調査事例について、土木計画学研究・論文集 No.16、pp.551-521、1999 年 9 月